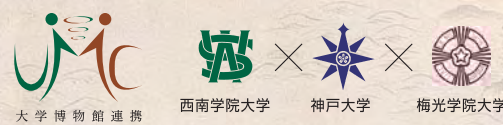


2014年春季特別展 大学博物館共同企画Ⅳ

海路



—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—

会期／2014(平成26)年 6月16日(月)～8月30日(土)

時間／午前10時～午後6時(入館は午後5時半まで)※日曜休館

会場／西南学院大学博物館特別展室 入場料／無料

主催／西南学院大学博物館 共催／神戸大学海事博物館・梅光学院大学博物館

協力／船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

後援／福岡県・福岡県教育委員会・福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団

開催概要

大航海時代の訪れは、日本に新局面をもたらしました。それはこれまでにない文化的萌芽としてあらわれ、特に鉄砲とキリスト教伝来は、日本がダイナミックな世界史の舞台にたった瞬間でした。「海路」を通じてもたらされた新しい文物や思想は、着実に日本に浸透し、受け入れられていきました。これは各地で特色のある様々な「かたち」としてあらわれました。

そこで、本特別展は海路をキーワードとし、西日本域に定着した共通の思想的テーマであるキリスト教文化の特色、そして海外交流の姿を紹介していきます。



◇展示構成

I 描かれた海路

時代を問わず物流を支えているのは船舶であり、海路は重要な交通手段として整備されてきました。自然環境や気象条件によって、乗組員の生命が危機にさらされるため、船の改良はもとより、海路図もつくられました。運航ルートや島間の距離など、詳細に記している姿は、まさに危険と隣り合わせであった当時の人々の心境、そして航海技術の進展を物語っています。

II キリスト教史の展開

「海路」からは文物の流通ばかりでなく、思想や宗教ももたらされました。1549年にフランシスコ・ザビエルは鹿児島に上陸したのち、九州各地(平戸・福岡)を訪れ、京都上洛を果たします。ザビエルが伝えたキリスト教は各地で定着し、信仰とともに新しい文化である南蛮文化を創出しました。海禁政策により海路が閉ざされた日本でしたが、一度萌芽した文化は紅毛文化として形を変えながら定着していくことになりました。

III 祈りのかたち

海に関わる人々は常に生命の危険と隣り合わせでした。暴風による難破、そして漂流という危険が、いつ我が身に降りかかるかもしれないなかで、航海の安全を絵馬として社寺に祈願しました。また、南蛮船が行き交った時代の豊かさを求めて奉納するものもあり、祈りのかたちは様々でした。

IV 海外交流の諸相

九州各地では古くから大陸と交流しており、数多くの文物が行き交っていました。特に福岡では、中国や朝鮮半島から陶磁器類などが伝わっており、それは発掘成果からも明らかとなっています。それらの遺物は、中近世の日本、ひいては九州における海外交流史を示すものです。

行事予定

2014(平成26)年

【特別展／企画展】

2014年6月16日(月)～8月30日(土) 大学博物館共同企画Ⅳ

海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—

[場所]西南学院大学博物館1階特別展室、2階講堂

2014年9月4日(木)～10月18日(土) 大学博物館共同企画Ⅳ

海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—

[場所]梅光学院大学博物館

2014年11月8日(土)～12月19日(金) 大学博物館共同企画Ⅳ

海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—

[場所]神戸大学海事博物館

【講演会】

2014年7月5日(土)14:00～16:00

ミュージアムセッション「持続する“連携”のあり方」

[場所]西南学院大学博物館2階講堂

[講師]安高啓明氏(本学博物館学芸員)

佐藤睦子氏(梅光学院大学博物館学芸員)

松本博幸氏(天草市観光文化課文化振興係学芸員)

梶谷東輝氏(船の科学館学芸員)

2014年7月26日(土)14:00～16:00

第15回特別展関連公開講演会

[場所]西南学院大学博物館2階講堂

[講師]安高啓明氏(本学博物館学芸員)

「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」

渡辺一雄氏(梅光学院大学文学部長・博物館長)

「海峽・港町の2000年—文化遺産でたどる下関(赤間関)の歴史」

【せいなんこどもワークショップ2014】

2014年5月17日(土)10:00～12:00

「パッチづくりにちょうせん」—草花のかんざし—

[集合場所]西南学院大学博物館2階講堂

【せいなんおでかけワークショップ】

2014年8月5日(火)14:00～16:00

「パッチ作りにちょうせん」

[場所]南島原市西有家図書館

2014年8月6日(水)10:00～12:00、14:00～16:00

「ポルトガル船づくりにちょうせん」「地球儀を作ってみよう」

[場所]南島原市原城図書館、有家図書館

【その他】

2014年5月24日(土)10:30～12:00

博多学

[場所]西南学院大学博物館2階講堂

2014年7月22日(火)～8月2日(土)

博物館実習

[場所]博物館研究室

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]

キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

来館者掲示板

日本における西欧の宗教や文化の受容に関心があり
大変興味深く拝見致しました。
遠方なのでなかなか来れませんが、企画面白そうです!
(2014年1月)

在学生ですが、母と初めて訪れました。個人的には講堂が
一番お気に入りでした。あそこで入学式をしたかった(笑)
(2014年2月)

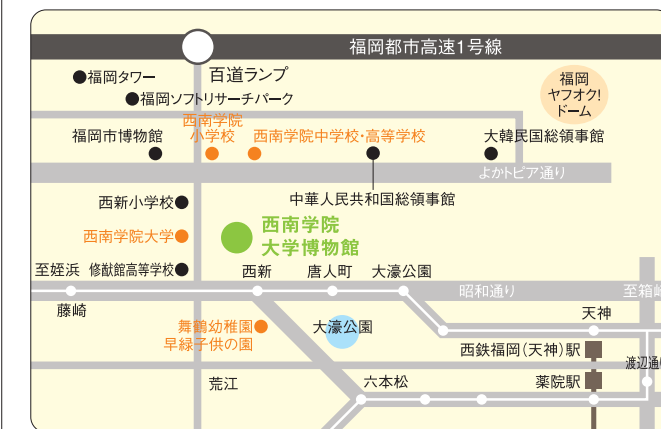
高校の卒業生です。卒業以来久しぶりに来ましたが、チャペルが
当時のまま残っていてなつかしかったです。本当に素敵な学校だと再認識しました。
(2014年3月)

遺物を大切に保管され、素晴らしいです。
これからも次世代への贈り物としてよろしく願います。
(2014年4月)

博物館が開館した2006年から始まった来館者ノートには、様々な方からのコメントが寄せられています。学生、卒業生だけでなく、近隣や遠方の方々、そして中国や韓国といった海の内側の友人たちが、この博物館へと足を運び、感動を自分の言葉で残して下さっています。
ノートに寄せられる言葉のひとつひとつが、この博物館の宝のように感じられるのはきっと私だけではないでしょう。ご来館された際は、どうぞこのノートも展示品のひとつとしてお楽しみ頂けたらと思っております。
皆様の温かい言葉をページいっぱい抱いて、来館者ノートにはこれからもこの博物館を見守っていただきたいと思います。

博物館スタッフ A・Y

アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄
 - 福岡空港 → 西新駅下車...約17分
 - 博多駅 → 西新駅下車...約12分
 - 天神 → 西新駅下車...約8分
 - ※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- バス
 - 博多駅バスセンター → 修験館前...約35分
 - 天神 → 修験館前...約20分
 - ※修験館前バス停から徒歩5分
- タクシー
 - 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
 - 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
 - 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 19 2014.6

西南学院大学



フランシスコ・ザビエル像【西南学院大学博物館所蔵】

アジアを舞台に布教をおこなった聖人... 特集 フランシスコ・ザビエル像 18世紀/インド

ゾーリ建築を求めて◎ 日本基督教団福島教会(会堂)

特別展紹介 海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—

所蔵品紹介 フランシスコ・ザビエル像

大学博物館紹介◎ 佐賀大学美術館

日本基督教団福島教会(会堂)

今回紹介するのは、1909(明治42)年に、ヴォーリスが日本で最初に手がけた宗教建築とされる日本基督教団福島教会会堂です。アメリカの教会堂を模しながらも、畳座敷を設けた和洋折衷の独創的な建築となっています。

外観も変化に富み、特徴的で鮮やかな赤レンガと簡素な木造様式は、後に建造された初期ヴォーリス建築の雛形となりました。完成から100年余り経過し、国登録有形文化財に指定されていたのですが、東日本大震災で被災、安全性が保てないという理由でついに取り壊されてしまいました。

現在は隣に残された伝道館にて礼拝が続けられていますが、各地からの支援により、2013年に新会堂建築が決定されました。会堂再建築の設計は、一粒社ヴォーリス事務所に委託され、信者の方々とともに、教会再建への道の一歩ずつ歩み続けています。



学芸調査員 阿部大地
(写真提供元/日本基督教団福島教会)

【大学博物館紹介⑧】佐賀大学美術館

佐賀大学美術館は、2013年(平成25年)10月1日、「旧佐賀大学」と「佐賀医科大学」が統合して10周年を迎えるのを記念して設置されました。教育・研究への活用だけではなく、地域・社会貢献に資することによって、芸術及び文化の振興を図ることをその目的としています。

ガラス張り純白の壁が印象的で、暗く閉鎖的な旧来の博物館イメージを覆す、まさに新しい時代の博物館だと言えるでしょう。内部を透けさせるガラスの壁は、今まで博物館に関心を持っていなかった学生が来館するきっかけにもなっていると聞きます。



現代の大学博物館には、単なる研究機関ではなく、地域社会に開かれた場であることも求められています。そんな中、オープンな場を目指して設置された佐賀大学美術館は、現代の状況を映し出す鏡となるのではないのでしょうか。新設の大学博物館であるだけに、今後の展開が期待されます。

学芸調査員 下園知弥

開館時間/10:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
夏季休館期間8/13~15、冬季休館期間12/27~1/5
お問合せ/〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1番地
TEL.0952-28-8333 FAX.0952-28-8215
U R L/ http://suam102.com/

所蔵品紹介

アジアを舞台に布教をおこなった聖人… フランシスコ・ザビエル像(18世紀/インド)

フランシスコ・ザビエル(1506-1552)は、1542年にインドのゴアにやって来ました。ゴアはアジアにおけるキリスト教布教の拠点で、ザビエルが数年間滞在して布教に努めた土地です。ザビエルの死後、遺体はゴアに運ばれ、現在のボム・ジェズ教会にある礼拝堂に奉られています。同地と関係の深いザビエルは、ゴアの守護聖人として厚く信仰されています。

本資料はそのようなインドで製作された、ザビエルの木製の立像です。軽く首をかしげて両手を広げ、片足を踏み出すかのようなようです。

この様子は、ボム・ジェズ教会に置かれた木製のザビエル像(17世紀)と非常に類似しており、ザビエルが奉られた権威的な場所にある像を模して、製作されたと推測されます。

そうすると、本資料のザビエルの両手に見られる穴には、教会の像のように、十字架がはめられていたのかもしれませんが。

本資料のようなザビエル像は無数に製作されたといわれており、ザビエルへの信仰の篤さを物語っています。

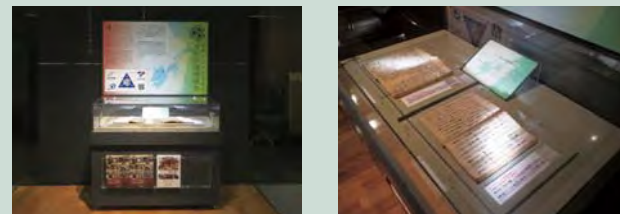


背後から見る両手の穴

学芸研究員 内島美奈子

学芸員の眼 — 産官学連携事業の始動 —

大学博物館ではこれまで地域博物館や地方自治体、大学博物館などと特別展開催という形で連携事業を展開してきました。特別展での協働は、会期のある有期的な連携事業としておこなってきましたが、新たな取り組みとして、地域博物館で常設展示をおこなうために、ブースを新設しました。本事業は大学博物館での研究成果を恒常的かつ広域に発信するため、そして学生への実践教育の機会の提供を目指しています。これにあたり、博物館事業で不可欠な展示業者や印刷業者など、企画趣旨にご理解いただいた「博物館産業」にも協力いただき、展示ケー



天草キリシタン館での展示風景

スやチラシなどの無償提供を受け、天草市立天草キリシタン館で実施することになりました。博物館にとってはサービスの向上、博物館産業にとっては自社PRと社会貢献事業として、産官学の三者にメリットのある企画となりました。企画に賛同いただいた株式会社インテックス(本社長崎)、株式会社ツカサ創研(本社熊本)、そして会場を引き受けていただいた天草キリシタン館には御礼申し上げます。今後も大学博物館のサテライト展示の充実を目指していこうと考えています。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご来館いただければと思います。

博物館学芸員 安高啓明



博物館通信

2014年1月から2014年6月までに行なった博物館活動や出来事のなかからいくつか紹介します。

- 1月25日(土)、本学博物館の宮崎克則館長が「シーボルト年表-生涯とその業績」(共著者石山禎一氏、八坂書房)を刊行しました。
- 3月8日(土)、せいなんこどもワークショップ2013「イースターエッグをつくろう」を実施しました。
- 3月20日(木)、天草市立天草キリシタン館で、当館の所蔵品が展示される産官学連携事業がスタートしました。
- 3月20日(木)、西南学院大学卒業(修了)証書・学位記念授与式が挙行されました。
- 4月1日(火)、西南学院大学入学式が挙行されました。
- 4月15日(火)、本学博物館の安高啓明学芸員が「歴史のなかのミュージアム-驚異の部屋から大学博物館まで」(昭和堂)を刊行しました。
- 4月16日(水)、2014年度新任職員研修が行われ、博物館見学がありました。
- 5月17日(土)、せいなんこどもワークショップ2014「バッチづくりにちょうせん!-草花のかんざつ-」を実施しました。
- 5月28日(水)~6月2日(月)、大学博物館学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」で中国(北京市)における大学博物館の調査を行うため、11館の博物館を訪れました。
- 北京大学地質博物館、北京大学考古芸術博物館、北京大学校史館、中国人民大学博物館、中国人民大学芸術学部展示室、中央民族大学民族博物館、中央民族大学美術学院展示室、北京服装学院民族服飾博物館、北京服装学院造形芸術系展示室、北京服装学院総合展示室、中国伝煤大学博物館
- 6月4日(水)、西南小学校2年生から「おはなのひ」に感謝のお手紙とお花をいただきました。

スタッフの声

新年度がはじまりました。春の陽気に誘われて、博物館前の花壇にも続々と色鮮やかな便りが届いております。新大学生となった学生たちも、キャンパスライフに慣れて来た頃でしょうか。自分だけの花を咲かせられるよう、充実した大学生活を送って欲しいものです。

さて、2014年となり、いよいよ2年後に100周年を迎えることとなった西南学院ですが、当館建物はその西南学院本館として1921年に誕生しました。今は博物館として学院の歴史を見守ってくれていますが、100周年を一番喜んでいるのはこの建物かも知れませんね。学院や学生たちがどんどんと成長し変わっていく中で、変わらずにそこに在り続ける誇りと強さが、建物全体から伝わってくるようです。

学芸調査員 山尾彩香

せいなんこども ワークショップ2014 ご報告

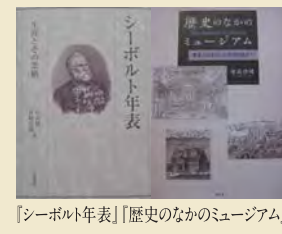
せいなんこどもワークショップ2014年「バッチづくりにちょうせん!-草花のかんざつ-」を5月17日に開催しました。参加してくれたのは13名の小学生と、4名の西南学院大学の学生ボランティアです(人間科学部2年生:石橋奈月さん・藤あかねさん、経済学部3年生:大谷茜さん・真崎茜さん)。5月の暖かく、花々の美しい季節を活かし、聖書植物園で草花を観察するプログラムを行いました。創立50周年を記念し設置された植物園で、聖書に出てくる草花を学びながら実際に見て回りました。途中、小林洋一先生(元神学部教授)のお話を聞きながら、植物観察できたことはとても良い経験となったと思います。また子ども達は、ドイツ留学生マルセル・プリスさんの「ドイツと日本の文化」についての発表を興味深そうに耳を傾けていました。

最後に、ワークショップ参加の記念にバッチを子ども達と作り、プログラムを終えました。参加してくれたみなさん、ボランティアのおねえさん、ありがとうございました。8月のワークショップもお楽しみに!

学芸調査員 出口智佳子



3月ワークショップの集合写真



「シーボルト年表」



5月ワークショップの様子



中国人民大学博物館正面



西南小学生からお花を受け取る様子